

(別記様式)

令和3年度 府立聾学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	本年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p><b>&lt;学校目標&gt;</b>  <b>夢・可能性・生きぬく力</b>  <b>&lt;教育目標&gt;</b>  <b>人と向き合い、社会とつながりながら自ら考え、伝え、行動する幼児及び児童生徒の育成</b></p> <p>(1)夢と希望を持ち、自ら学び自らを高め、自らの未来を見通し切り拓く力を育む。  (2)高い志とユニバーサルな視野をもって、自らの能力や可能性を最大限に伸ばし、社会において自立することでこれからの社会づくりに貢献できる人間を育成する。  (3)目標を実現するため、失敗を恐れず挑戦し続ける意志と健康でたくましく生きる力を育む。  (4)礼儀と規律を重んじ、人を思いやり共に助け合い、人や社会と積極的に関わりながら共生する力を身につけ、次代を支える人間を育成する。  (5)自然や文化を学び、愛し、大切にすることを育てる。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「新しい生活様式」による対策の徹底、学校教育活動継続支援事業も活用した環境整備や子どもの順応性の高さから、校内での感染拡大には至らず、オンライン活用等の工夫もしながら教育活動を継続させることができた。</li> <li>ICT機器の活用が一気に進んだ。また、学部を超えた指導体制の工夫や教科担当者会の開催、学部ごとの自立活動の見直しや研修などによって授業改善や指導の充実に取り組めた。</li> <li>校内組織として広報企画担当を置き、年間で250回を超えるホームページの更新、学校パンフや学校紹介動画の作成等に取り組み、発信力を高めることができた。</li> <li>コロナ禍においても、感染状況を踏まえてオンラインも活用しながら地域のニーズに応える相談支援に取り組めた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感染対策を優先するとマスクを着用せざるを得ないため、少なからずコミュニケーションへの影響があった。また、感染状況を見極めながらの学校運営となり、学校行事や校外学習等の中止・延期や見直しなどで学習活動への影響や子どもの心理面への負担も少なくなかった。</li> <li>全体としてICT機器の活用はすすんだが、個人によって活用のスキルや意識に差がある。また、学校全体としての自立活動の系統性については次年度に向けて課題が残った。</li> <li>広報活動については学部間で温度差がある。発信内容や評価の方法を工夫し、より聾学校の魅力を発信できるようにする。</li> <li>コロナ対策として相談活動の中止や延期を余儀なくされた。公開講座やホームページ等による専門性の発信は十分に取組めなかった。専門性の向上については担当者任せになっているところが大きく、学校全体の力量向上には至っていない。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>全教職員による安心・安全な学校づくり  ○コロナ禍における「新しい生活様式」に基づく教育活動の継続  ○幅広い想定に基づく避難訓練・防災学習の実施や安全指導の充実  ○安心・安全な給食・舎食の実施や校内環境の整備</li> <li>個と集団を生かし、質の高い学力・言語力を保障するための授業改善  ○学部を超えた授業づくり（授業公開週間・教科担当者会・学部を超えた学習指導体制）  ○自立活動の充実（指導内容の共有と見直し・学部や寄宿舎をつなぐ指導の系統性の追求・指導に生かせる研修の実施）  ○ICT機器の積極的な活用（アプリや活用事例の交流・スキルアップのための研修の実施・ネットワーク等の専門性の継承）  ○様々なコミュニケーションスキルや意識の向上（対話的な学習や活動の重視・手話等の技術の向上・教育オーディオロジーに関する研修の充実）</li> <li>教育活動の様子や聾学校としての魅力の発信  ○ホームページや学校だより等の充実  ○校内外における発信の内容や方法の工夫（学校運営協議会やPTAとの連携・校内掲示の充実・新聞等による広報）</li> <li>地域のニーズに応じた支援相談の充実と機関連携の具体化  ○早期発見・早期支援に係る関係機関や行政との連携・協働  ○巡回相談等による地域や個々のニーズに応じた相談支援の充実  ○担当者の専門的力量的の向上</li> </ol>

評価領域	重点目標	具体的方策	成果と課題
1 組織・運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営計画に基づいた組織的・計画的な学校運営を確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営計画の重点と連動した学部・分掌等の具体的な活動計画を策定し、中間評価を取り入れたPDCAサイクルによる経営を進める。</li> <li>広報企画担当を中心に、ホームページや学校だより、新聞広報や校内掲示等によって教育活動の様子や魅力を発信する。</li> <li>一人一人の職員が心身の健康を大切にするとともに、同僚の心身の健康にも気遣い、チームとして実践できる職場環境を形成する。  （働き方改革に基づく業務の見直し、府の時間外勤務縮減目標の達成）</li> <li>児童生徒及び保護者アンケート、関係機関による評価を学校経営に生かす。</li> <li>PTAとの連携による全校参観日、保護者学習会等を計画し、保護者・PTAと一体となった学校づくりを進める。</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業や行事の様子を中心に、250回を超えるホームページの更新を行った。</li> <li>衛生委員会の活動等によって全体的に勤務時間に対する意識が高まってきた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒・保護者アンケートは実施したが、実施時期が遅く、結果を学校経営に「生かす」までには至らなかった。</li> <li>PTAとの連携・協働はコロナの影響でほとんどもてなかった。今後はオンライン活用も検討する。</li> </ul>

2 教育課程	・教科学習等における学部間の連携や指導体制の工夫に取り組む。	・学部間の連携や指導内容・方法・評価の改善に取り組むために、教科学習等における学部を超えた指導体制や教科担当者会等を持つ。	A	A	【成果】 ・体育科や社会科などで学部を超えた指導体制が定着してきた。今後も学部や子どもの実態を踏まえて拡大する。 ・教科担当者会議で指導内容や担当者の意識などについて共通理解が図れた。 【課題】 ・各計画を活用した指導や連携が課題である。
		・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の適切な作成と活用に取り組む。	B		
3 学習指導	・一人一人の障害や発達を踏まえたPDCAサイクルによる授業改善に取り組む ・自立活動等の指導の充実を図る。 ・ICT機器を積極的に活用し、学習効果を高める。 ・個に応じた教育を推進し基礎学力の充実・向上を図る。	・教務部と各学部研究組織が連動して、各学部の授業公開週間を実施し、評価・助言し合うことで指導の充実を図る。	B	B	【成果】 ・ICT機器の活用が広がった。特に、小・中学部では、教員研修によってタブレットの使用が当たり前になり、授業改善や交流及び共同学習の充実につながった。 ・読書活動では校内アンケートに取り組むことで読書に対する意識の把握や向上に取り組んだ。 【課題】 ・授業公開週間はコロナの影響で学部内の取組に留まった。コロナ禍における工夫が求められる。 ・各学部での自立活動の内容の検討や見直しを学校全体としての系統性のある指導へと高める。 ・聾学校における「主体的・対話的で深い学び」による授業づくりの内容や形態についての研究実践に取り組む。
		・日々の授業において、対話的な学習や活動を取り入れた授業に取り組む。	B		
		・キャリア教育の視点に立って自立活動の指導内容を見直し、学部や寄宿舎をつなぐ系統的な指導に取り組む。	B		
		・ICT機器の積極的な活用を進めるために、アプリや活用事例の交流、スキルアップのための研修に取り組む。	A		
		・障害の状態や資質・能力・特性を適切にアセスメントすることにより、指導の手立てを工夫し実践する。 ・読書や図書館活用のための指導や啓発を行い、図書館の利用を促すことで児童生徒の読書意欲を高める。	B A		
4 特別活動	・集団や社会の一員としての資質を身につけた主体的自主的な児童等の育成に努める。	・児童会・生徒会活動を通して、児童等に自主性・主体性やリーダーシップなどが育つよう適切な指導や手立てを行う。	A	A	【成果】 ・コロナの影響で学部を超えた行事や取組が実施できない中、それぞれの学部での工夫によって児童生徒が自主性や主体性、リーダーシップを発揮できた。
		・行事等において対話的な活動を取り入れるなどして、人を思いやり、助け合いながら、自主的、意欲的に参加する力を高める。	A		
5 生徒指導	・望ましい人間関係の育成と個性の伸長に努める。	・キャリアマップの作成・活用、個々の成果や努力が認められる機会などとおして自己肯定感を高める。	A	A	【成果】 ・「いいねカードの活用」(高)など、各学部で子どもの自己肯定感や達成感を意識した指導に取り組み、成果を上げることができた。 ・大きな問題につながりかねない事象について、家庭等と迅速かつ丁寧な連絡や対応を行った。
		・非行や問題行動などへの対応を迅速かつ組織的に行う。	A		
		・家庭や関係諸機関と必要に応じて緊密に連携する。	A		
6 進路指導	・キャリア教育の視点を重視し、各段階でのキャリア発達を促す指導を推進する。	・進路情報を幅広く収集整理し、積極的かつ適切に活用する。	A	A	【成果】 ・日々の進路指導や進路学習、家庭等との連携によって高等部3年生の希望する進路を実現させた。 ・職員研修に取り組み、教員の進路に対する考え方や進路に関わる情報について共通理解を図った。 【課題】 ・ソーシャルスキル習得についての実践研究に取り組む。 ・卒業生の就労や生活の状況の把握やネットワークづくりに取り組む。
		・希望する進路の実現に向けて勤労観・職業観などの指導を計画的・系統的に行う。	A		
		・進路学習や職場体験を通して、働くことの意味や責任についての自覚を高める。	B		
		・卒業後の自立と社会参加の姿を見通した指導を行うための全校研修会に取り組み、共通理解を図る。(1回/年)	A		
7 人権教育	・人権問題を正しく理解し、その解決に向けて行動できる力を育てる。	・人権教育の推進に向けて校内研修を行う。(1回)	A	A	【成果】 ・人権研修を開催して同和問題や人権教育に対する研修を深め、日々の指導に生かした。 ・コロナ対応では、常に人権への配慮を子どもや保護者に呼びかけ、教員間でも共通理解を図ったことで、問題となる事象は起きなかった。
		・年間指導計画に基づき、様々な人権に関する教材づくりに取り組み、児童等の実態に応じた人権学習を実施する。	A		

8 健康・安全 教育	・児童等の心身の健康状態を把握し、その保持増進を図る。	・学校保健計画に基づき、定期健康診断・保健調査及び日々の健康観察を充実させ、心身の健康状況を的確に把握する。	A	A	【成果】 ・コロナ禍ではあったが、校医の協力もいただき、感染防止対策を講じた上で、計画どおりに健康診断等を実施することができた。 ・各学部において、医療専門職派遣事業を活用した研修に取り組み、日々の指導や保護者との連携に生かすことができた。 ・給食や舎食では、手洗いや黙食の徹底、座席配置の見直し等によって校内でのコロナの感染拡大を防ぐことができた。 【課題】 ・コロナの影響で、給食以外の飲食を伴う活動ができなかった。 ・緊急時対応訓練の実施は次年度の課題となった。
		・医療専門職派遣事業を活用した障害や特性、疾病等に関わる研修に取り組み、適切に対応する力を高める。	A		
		・保健指導及び保健学習を通じて心身の健康に関する認識を高め、家庭と連携しながら基本的生活習慣の定着を図る。	B		
	・児童等の実態に応じて健康・安全教育を進める。	・年齢及び発達の段階に応じて、性に関する知識の学習を計画的に行う。	A		
		・アレルギーの実態を把握しアレルギーに関する知識を学習し、正しい判断力と行動力を養う取組を進める。(全校研1回、緊急時対応訓練1回)	B		
		・給食指導を通じて、望ましい食生活の形成を促す。	A		
・児童等の実態に応じて食育を進める。	・食に関する指導の全体計画を下に、各学部の取り組みを実施する。	A			
9 研究・研修	・専門性と教育的指導力の向上を図る。	・センター研修等、各種研究会を積極的に活用する。	B	B	【成果】 ・コロナの感染状況を踏まえながら、可能な範囲で手話研や聴能研に取り組めた。さらに参加率を高める。 【課題】 ・センター研の内容を広く知らせるとともに、学校組織に位置づけた受講に取り組む。
		・手話や教育オーディオロジーに関する研修会を定期的に関催し、新転任者等の専門性や指導力の向上に取り組む。	A		
10 学習環境	・学習環境の整備に努める。	・計画的な予算執行の下、学習に必要な施設や機器の整備を行う。	A	A	【成果】 ・学校教育活動継続支援金も活用して、感染拡大防止対策やICT機器を中心とした学習環境の整備に取り組めた。
11 危機管理	・危機管理システムの整備充実と活用力をつける。	・防災、火災及び地震等による避難訓練、土砂災害緊急避難訓練を実施する。	C	B	【成果】 ・ネットワーク管理に係る体制の確立や担当者の研修に取り組むことができた。 【課題】 ・コロナの影響もあって、避難訓練や初期消火訓練を実施できなかった。早い時期に計画する。 ・紙ベースも含めた個人情報の取扱いや保護者対応における人権上の配慮の徹底を図る。
		・危機管理マニュアルに基づく実践力を身につけるため、初期消火訓練を実施する。	C		
		・安全点検を行い、校内の安全を確保する。(毎月)	B		
		・家庭・地域社会と連携し、登下校の安全を確保する。	B		
		・危機感をもって個人情報の取扱いやセキュリティー等への理解を深め、適切に対応する。	B		
12 家庭・地域 社会との 連携	・学校運営協議会やPTAとの連携をとおした教育活動の充実と地域との連携、共同の取組の具体化を図る。	・一人一人の教育的ニーズに対応できるよう関係機関との連携を深める。	B	B	【成果】 ・コロナの影響で直接的な交流及び共同学習の機会は大きく減少したが、オンラインを活用した取組を拡大・充実させることができた。
		・近隣園・校や居住地園・校との交流及び共同学習や地域での体験学習をとおして、幼児児童生徒の学びの場や機会を広げる。	B		
13 センター 的機能	・特別支援教育に関する情報提供と各学校等の支援力家庭の支援力を高める。	・乳幼児児童生徒に対して早期教育・進路相談などの適切な支援を行う。	B	B	【成果】 ・関係諸機関とのカンファレンスの開催や日々の連携によって共通理解を図り、支援の充実や専門性の向上に取り組むことができた。 【課題】 ・オンラインを活用した公開講座の開催やホームページを活用した専門性、機関誌の充実などに取り組み、支援センターとしての発信力をさらに高める。
		・本校において聴覚障害教育に関する研修会を開く。	C		
		・聴覚障害教育に関する情報及び教材の提供等を行う。	B		
		・医療・福祉・教育等の関係諸機関と地域連携協議会や合同研究会を行う。	A		
		・公開参観日や学校公開等、さまざまな機会に対外的な啓発活動を進める。	C		

<p>学校運営協議会 による評価</p>	<p>○コロナ禍におけるICT機器の活用による授業の充実には大いに期待がもてる。一方で、校内のネットワークセキュリティーや保護者のセキュリティーも含めた活用への理解などの課題があり、専門性をもった教職員の育成が求められる。来年度から配置されるICT支援員も活用し、ICT教育の充実に努めてほしい。</p> <p>○ホームページについては、更新回数よりもどれくらいの人に閲覧してもらったかが重要になる。また、一方通行の発信ではなく、情報を双方向でやりとりする仕組みも重要になってくる。スマホユーザーが圧倒的に多いので、その点も重視していけると発信力がさらに高まる。</p> <p>○卒業生の進路について、これまでのデータとも比較しながら、個々の希望や社会のニーズに応じた進路指導をすすめてほしい。専攻科への希望が減ってくる中で、大学進学が増えている現状では、高等部3年間でしっかりと成果を出すことが求められる。</p> <p>○コロナ対策の取組については高く評価できる。聾学校ではマスクの影響が大きいいため、個々のきこえの状態や活動内容に応じて、透明マスクの活用などの丁寧な情報保障に取り組んでほしい。</p> <p>○「働き方改革」については、教育活動の充実と合わせて重要な課題であり、民間企業の取組も参考にしながら、例えば「時間外勤務はあらかじめ終了時刻を決めておく」などのルール作り、「意識改革」をキーワードに継続して取り組んでほしい。</p>
--------------------------	--

<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<p><b>&lt;学校づくり&gt;</b></p> <p>○「新しい生活様式」に基づく感染防止及び感染拡大防止対策の徹底と日々の授業や行事等の工夫によって教育活動を継続・充実させる。</p> <p>○避難訓練や防災学習、日々の安全指導に計画的に取り組むとともに、万が一の場合に備えて地域との連絡・連携を強化する。</p> <p>○「働き方改革」をさらにすすめ、誰もが健康でやりがいをもって働ける学校づくりに取り組む。</p> <p><b>&lt;授業改善&gt;</b></p> <p>○ICT機器（タブレット端末等）を積極的に活用し、個々の障害や発達を踏まえながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」に基づく授業づくりに取り組む。</p> <p>○授業のねらいに結びついた効果的なICT機器の活用に関わる研修に取り組み、教職員一人一人のICT活用能力を高める。</p> <p>○自立活動の指導を学校全体として系統的に行うための研究や研修に取り組む。</p> <p>○手話や教育オーディオロジーをはじめとした専門研修を計画的に実施し、学校全体としての専門性の維持・向上に取り組む。</p> <p><b>&lt;聾学校の魅力の発信&gt;</b></p> <p>○保護者や地域等の評価も踏まえながら、ホームページや学校紹介パンフ、学校紹介動画の内容をさらに充実させる。</p> <p>○校内ネットワークの構築と担当者の育成に取り組む。</p> <p><b>&lt;センター的機能&gt;</b></p> <p>○コロナ禍においても工夫しながら保護者や地域のニーズに応える継続的な教育相談や啓発活動に取り組む。</p> <p>○地域支援に関わる担当者の育成を計画的かつ組織的に行う。</p>
--------------------------------	---